

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2012年5月25日（土）、26日（日）、2012年度日本語教育学会春季大会が拓殖大学文京キャンパスで開催された。参加者は招待者・関係者を含めて1,063名であった。

1. 1日目は、開会式に続いて表彰式が行われ、論文賞の三好裕子氏、奨励賞の庵功雄氏、学会賞の砂川有里子氏がそれぞれ受賞した。各受賞者から受賞スピーチがあった。
2. 開会式・表彰式に引き続き、一つの会場で学会創立50周年記念パネルセッション、三つの会場で5件のパネルディスカッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
3. 懇親会は、キャンパス内の学生食堂で行われ、招待者・関係者を含めて123名の参加者があった。
4. 2日目には、四つの会場で28件の口頭発表、二つの会場で11件のポスター発表、一つの会場で4件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。
5. 両日にわたり、大会会場にて学会による東日本大震災義援金募金活動が行われた。

◆2012年5月26日（日）、拓殖大学文京キャンパスC館510教室において2012年度第1回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2012年度春季大会の企画・運営について
北海学園大学・中川かず子実行委員長のご挨拶の後、準備状況の報告を受けた。また、理事会による特別企画パネルセッション用に特別措置としてパネル枠を準備することとした。
2. 今大会実施状況中間報告について
各会場への案内や誘導に多少分りにくい点があり、案内誘導係のアルバイトなどを場合に応じて増員するなどの必要性が指摘された。
発表会場での使用機器に関して発表者への指示どおりに行われなかったケースがあり、進行の妨げやトラブルを避けるため改めて周知し協力を依頼する必要性が指摘された。
大会に参加するために必要な手続きなど参加ルールを逸脱するケースがあり、改めて周知し協力を依頼する必要性が指摘された。
3. 発表規程関係の検討について
発表形態WGで検討の中間報告が行われ、さらに検討を

続けて成案を得た段階で委員会として共有することとした。

4. 2013年度春季以降の大会について

2013年度春季、秋季、2014年度春季、に関しては決定ないしはほぼ決定したことを再確認したが、2014年度秋季大会についてはコンベンションセンター関連で調整を試みていることが報告された。

◆2012年6月30日（土）、東方学会本館2階会議室において、2012年度第2回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2011年度春季大会の反省について

発表内で宣伝めいた発言があったとの報告があり、発表者への事前の注意喚起、また会場での必要に応じた注意喚起を心がけることとした。

2. 2012年度秋季大会（北海学園大学）準備の進捗状況について

大会開催準備の進捗状況を確認した。使用教室、当日のタイムスケジュール等の大枠が確認され、特別企画パネルセッションについてもタイムテーブル上の枠を決定した。

また教材紹介コーナーについては、スペースその他の事情があるため「第2回目の試行」として位置付け、学会主催（実質的には大会委員会が調整）とし、一般公募は行わず協賛関係10社に希望を募ることとした。また、大会委員から会場担当委員を配置することとした。なお、教材紹介コーナーの在り方について「試行結果」を踏まえて今後検討を行うこととした。

調査研究推進委員会によるセミナーの申請について大島委員から説明があり了承された。

3. 2012年度春季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表25件、ポスター発表20件、パネルディスカッション3件、デモンストレーション3件を採用した。審査後、不採用者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。

4. 2012年度秋季大会以降の企画・運営について

2013年度春季・秋季大会及び2014年度春季大会・秋季大会の会場校について資料に基づき委員長および事務局から報告があった。2014年度秋季大会については調整中であったコンベンションセンターでの開催の可能性が会場の都合により白紙に戻ったことが報告され、2014年度秋季以降について、コンベンションセンター等の利用も含めて会場候補の情報提供等について委員に探索協力の依頼があった。

また、2013年度秋季大会では大会委員会によるパネルセッションを企画することになっており、庵副委員長をチーフとして選出し、他の委員についてはチーフに一任することとした。

5. 発表形態検討WGの検討の進捗状況について

資料に基づき庵副委員長から報告があった。発表形態それぞれについての検討状況が報告され、今後さらに細部の検討を続け成案を得次第、委員会で共有・確認することとした。

6. 今後の委員会日程について

次回の委員会は、2012年10月14日（日）に秋季大会会場において行う。

（砂川 裕一）

● 学 会 誌 委 員 会

7月14日（土）午後1時～4時15分、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

152号・153号・154号・155号の刊行準備進捗状況およびEメール投稿受付に関する広報開始について報告した後、以下について審議した。

1. 153号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼7件の決定。
2. 153号投稿論文（投稿総数40本（研究論文28、調査報告6、実践報告3、研究ノート3）の審査。
3. 158号特集のワーキンググループ発足およびテーマについての検討。
4. 論文投稿における倫理上の問題についての検討ワーキンググループ発足。
5. とりまとめ方法の改定についての検討。

その後、次期委員候補者の推薦方法について確認を行った。

次回委員会予定：2012年11月10日（土）

（山内 博之）

● 研究集会委員会

◆ 研究集会実施報告

1. 2011年度第11回研究集会（関西地区）

日時：2012年3月10日（土）

会場：京都外国語大学

参加人数：145名（会員91名、一般54名）

内容：講演、研究発表16件

講演講師：山内博之氏（実践女子大学）

題目：「OPIを超える会話テスト」

山内博之氏による講演は、本来、1年前の2011年3月12日開催の研究集会で予定されていた。周知の大災害の影響で交通機関が十分に機能せず、来場がかなわなかった。1年後の研究集会にて改めてご講演いただいた。会話テストの一つであるOPI(Oral Proficiency Interview test)は、テスターとなるための準備に時間がかかること、テスターによって判定に幅が見られることなどの問題があり、これらを克服すべく、インタビュー形式である

一方、質問等のバンク化についての提言がなされた。口頭能力という測りにくいものをいかに効率よく確実に判定できるようにするかという大きな問題であり、フロアの関心も高かった。

講演後、16本の研究発表が4会場に分かれて行われた。日本語そのものについての問題、教室活動や教材の問題、学習者の心理の問題等が扱われており、それぞれ活発に議論された。

発表者・参加者に海外や日本の遠隔地からの人もいて、いつもより多くの人に参加いただくことができた。

（報告者：由井 紀久子）

2. 2012年度第1回研究集会（中部地区）

日時：2012年6月2日（土）

会場：金城学院大学

参加人数：約180名（会員約100名、一般約80名）

内容：ワークショップ、研究発表22件

ワークショップ（2件）

- (1) 講師：小林典子氏（元 筑波大学教授・現 筑波大学非常勤研究員）酒井たか子氏（筑波大学教授）

題目：「SPOTで測っているもの」

- (2) 講師：徳弘康代（名古屋大学国際交流協力推進本部）

題目：「語彙マップを使った漢字語彙学習—学習者個々に必要な漢字語彙を増やすために—」

平成24年度日本語教育学会第1回研究集会が、6月2日（土）に金城学院大学で行なわれた。今回は研究発表が4会場に分かれて、22件の発表が行なわれた。

恒例の昼食交流会では、8月に行なわれる国際大会の広報も行なわれ、その後の時間は中部地区としては初の試みとして、2会場に分かれてのワークショップを実施した。

ワークショップは、コンピュータ教室を使った、筑波大学の小林典子・酒井たか子両先生による、spotの体験型ワークショップと、名古屋大学の徳弘康代先生による、語彙マップを用いた漢字教育のワークショップである。いずれも活発な質疑が行なわれ、多様な意見が交わされた。

（報告者：内山 潤）

3. 2012年度第2回研究集会（九州地区）

日時：2012年6月16日（土）13：00～17：20、6月17日（日）9：30～15：45

会場：熊本学園大学12号館

参加人数：114名（会員57名、一般57名）

内容：講演、ワークショップ、研究発表（口頭10件、ポスター3件、ラウンドテーブル1件）、活動報告（口頭2件、ポスター4件）

講演およびワークショップ講師：池田玲子氏（東京海洋大学）

講演題目：「日本語教育のピア・ラーニング—協働の理

論と授業デザインの実際—」

ワークショップ題目：「ピア・ラーニングのデザインと実践のポイント」

昨年度までは土曜日に研究会、日曜日に会員研修を行っていたが、近年の発表数の増加に合わせて、今年度からは会員研修を廃止し、2日間通じて研究会とした。プログラムも「土曜日は少しアカデミックに、日曜日は実践中心で」という方針で作成し、口頭発表と講演を土曜日に、ワークショップとポスター発表、ラウンドテーブルを日曜日に配置した。参加者の交流促進という点でも、従来の懇親会（初日夕方開催）に加え、新たに昼食交流会（2日目）を設けた。

台風の接近による悪天候にも関わらず、熊本県内外から例年とほぼ変わらぬ114名の参加があり、充実した2日間となった。

（報告者：小山 悟）

4. 2012年度第3回研究会（北陸地区）

日時：2012年6月23日（土）10：00-16：20

会場：富山大学五福キャンパス 黒田講堂

参加人数：93名（会員38名，一般55名）

内容：講演，研究発表（ポスター5件，口頭4件）

講演講師：平高史也氏（慶應義塾大学総合政策学部）

題目：「生活者としての外国人に対する日本語教育と言語政策」

研究発表概略：

講演では、総合政策学の立場から言語政策を考えることの有用性が語られ、その観点から行った「生活者としての外国人に対する日本語教育」の実例が紹介された。また、「理念の共有：外国人だけでなく、日本人も含めた日本社会全体の問題としての認識」「制度化」「ネットワーク形成」「専門家」などが、生活者としての日本語教育の課題として示された。

講演後、ポスター発表、口頭発表が、幅広いテーマで行われた。いずれも熱のこもった発表がされ、活発な質疑応答がなされた。

学会員だけでなく、地域の日本語に携わる人、日本語学校で教える人、行政関係者、大学生など様々な立場の方の参加があった。今後も、日本語教育を介した地域のつながりをより深めて行くことが重要であろう。

（報告者：山崎 けい子）

◆2012年度後半の研究会予定

1. 第7回研究会（関西地区）

2012年9月1日（土），日本学生支援機構大阪

日本語教育センター

2. 第8回研究会（東北地区）

2012年11月10日（土），弘前大学

3. 第9回研究会（中国地区）

2012年12月8日（土），山口大学

* 発表応募締切：2012年9月14日（土）

4. 第10回研究会（関西地区）

2013年3月2日（土），甲南大学

* 発表応募締切：2012年11月17日（土）

※各地区研究会のプログラム，発表要旨，発表募集情報等は，日本語教育学会ウェブサイトの研究会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆ 会議記録

1. 研究会全体委員会

(1) 2012年度第1回研究会全体委員会

(2012年5月27日，拓殖大学)

- ・ 報告事項：新規委員紹介
各地区からの報告
- ・ 審議事項：研究会委員会方針について
研究会の運営方法について
- ・ その他

2. 研究会関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

(1) 2011年度第7回研究会関東地区委員会

(2012年3月27日，日本語教育学会事務局)

- ・ 2012年度実践研究フォーラム（発表応募採択の決定，各セッションの企画，会場，他）

(2) 2012年度第1回研究会関東地区委員会

(2012年5月15日，日本語教育学会事務局)

- ・ 春季大会全体委員会検討事項について
- ・ 2012年度実践研究フォーラム（各セッションの企画，予稿集，全体進行，会場，他）
- ・ 実践研究フォーラムWEB版報告

(3) 2012年度第2回研究会関東地区委員会

(2012年6月20日，日本語教育学会事務局)

- ・ 2012年度実践研究フォーラム（各セッションの進捗状況，パネルセッション詳細，予稿集，昼食懇談会の企画，他）
- ・ 実践研究フォーラムWEB版報告について
- ・ 2013年度の実践研究フォーラムについて

(4) 2012年度第3回研究会関東地区委員会

(2012年7月10日，日本語教育学会事務局)

- ・ 2012年度実践研究フォーラム（各セッションの最終確認，昼食・懇談室，当日の委員担当と進行の最終確認，他）
- ・ 実践研究フォーラムWEB版報告規定の決定
- ・ 2013年度の実践研究フォーラムについて

3. 次回会議日程

(1) 2012年度第2回研究会全体委員会

2012年10月14日，北海学園大学（秋季大会会場）

(2) 2012年度第4回研究会関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

2012年10月2日（火）、日本語教育学会事務局

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. ソーシャルメディアを利用した日本語学習環境
講師：リチャード・ハリソン氏（神戸大学）
アシスタント：楊柳青（神戸大学大学院生）
コーディネーター：根津誠、徳永あかね（教師研修委員）
開催日：2012年5月19日（土）10：00-17：00
会場：神戸大学留学生センター
参加者：21人
2. 日本語教師のためのコーパス入門：コーパス分析を取り入れた日本語教育
講師：李在鎬氏（筑波大学）
コーディネーター：古川嘉子、古市由美子（教師研修委員）
開催日：2012年6月30日（土）10：00-17：00
会場：国際交流基金日本語国際センター
参加者：41人

◆2012年度後半の研修予定

1. 質的研究入門—原理・方法・実践—
講師：佐藤郁哉氏（一橋大学大学院商学研究科）
開催日：2012年10月7日（日）10：00-13：00
会場：桜美林大学四谷キャンパス、定員：60人
2. 他学会連携研修（ヒューマンライブラリー）
講師：工藤和宏氏（獨協大学）
開催日：2012年10月27日（土）
会場：東京、定員：30人
3. 日本語教師が知っておきたい「地域の課題」
開催日：2012年12月1日（土）
会場：東京、定員：60人
4. 日本語教師が知っておきたい「アーティキュレーション」
*開催時期未定
5. 教室活動のデザインⅥ
講師：館岡洋子（早稲田大学）、木戸光子（筑波大学）
開催日：2013年1月13日（日）～14日（月・祝）
会場：東京、定員：30人
6. 日本語教師のためのオンラインIT講座
開催日：2013年1月～3月予定、定員：10人

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合があります。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2012年度第1回教師研修委員会（4月7日）
 - (1)2011年度後半の研修報告
 - (2)2012年度の各研修企画および進捗状況
 - (3)委員会活動方針及び研修運営マニュアルについて
 - (4)今後の会議日程確認
 2. 2012年度第2回教師研修委員会（6月16日）
 - (1)2012年度研修報告
 - (2)2012年度の各研修企画および進捗状況
 - (3)委員会活動方針及び研修運営マニュアルについて
日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに教師研修委員会の経緯と活動について掲載した。
 - (4)今後の会議日程確認
- ◆2012年度の会議予定
第3回教師研修委員会（2012年9月8日）
第4回教師研究委員会（2012年11月17日）

（古川 嘉子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2012（平成24）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係（kaiin@nkg.or.jp）までお問合せください。

<年会費>

- 普通会員 10,000円（年額）
- 賛助会員 一口50,000円以上（年額）

● 住所等の変更について

128ページまたは130ページの書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp